

平成 26 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」

特定非営利活動法人老いと病いの文化研究所われもこう

【設立年月日】 2010 年 4 月 7 日

【授賞理由】

貴会は最期まで地域のなかで生活するために必要なケアと場所を提供することで、多くの認知症の人に安心と勇気を与えてきました。地域において認知症の人をどのように支え、看取っていくかという模範を社会に示すとともに問題提起を行っています。

【団体概要】

2010 年に認知症や医療依存度の高い人々が、最期まで地域のなかで安心して生活できるようサポートすることを目的に設立された。空き家の民家を改修し、ホームホスピスとして 24 時間 365 日、最期まで介護できるスペースと看護と介護の専門職スタッフを確保し、その人らしさをいちばんに考え、老いや病、そしていつかは訪れる死を生活のなかで自然に受け止め、次の世代へ看取りの文化を継承する実践を行っている。

【事業活動】

1. 空き家を活用した住居の提供
2. 24 時間 365 日の日常生活サポート
3. フォーマルサービスとインフォーマルサポートの組み合わせ
4. 外部のサービスを活用したチームによるアプローチ
5. 家族の看取りの支援
6. 地域住民とのコミュニティーづくりと看取りの教育

【業績および功績】

病院や学校等の各種団体における講演活動を通してして、地域のなかで認知症の人をどのように支えていくことができるのか、看取りの場をどのようにするのかという問題提起を行うとともに、この講演会からスタッフ、ボランティア、空き家の提供等の活動の継続と広がりにつながっている。

また、地域のなかにある民家で行うことは、認知症の人がこれまで暮らしてきた生活の音やにおい、近隣住民の見守りや声かけなど、たとえ認知症があつたとしても普通の暮らしのなかで死にゆくことのプロセスを行うことである。そのことは、地域の看取り文化の伝承につながることも期待されている。